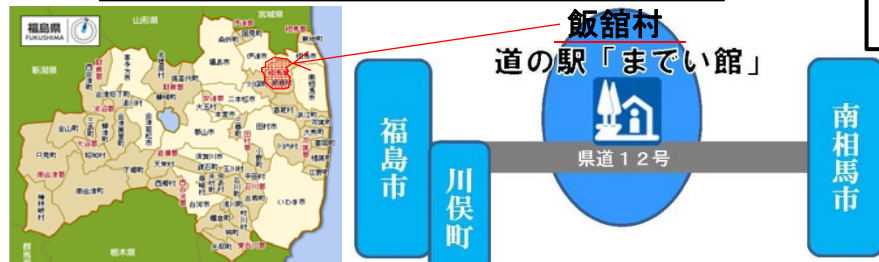


— 原発災害からの帰村時の日常生活を支え、産業復興を図る場として、復興拠点となる道の駅整備 —

- 避難指示解除後の帰村に即応し、生活必需品販売施設等を備え、帰村をサポートする拠点として整備する
- 村基幹産業である農業の復興のため、「花」をキーワードに先進的取組を実施・PRし、就農や営農再開を支援する

位置図



生活を支える地域福祉拠点
帰村に即した需要に対応

産業復興の先進的取組
先進技術による花づくりで農業復興

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
までい館	福島県	飯舘村	県道12号	新設	平成29年	一体型

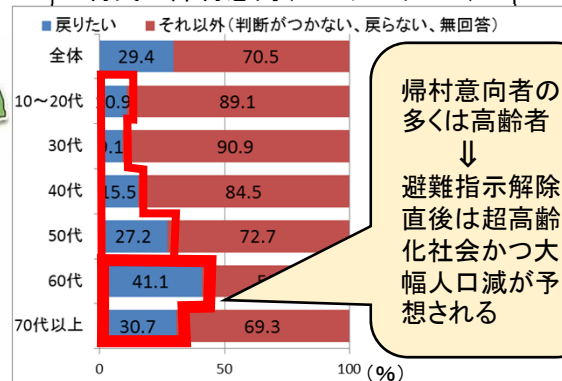
土地利用構想図



避難指示区域の状況



村民の帰村意向 (H27アンケート)



<提案の先駆性・ポイント>

- 放射能という特異性から、帰村人口の大幅減が見込まれる中で、「人」「もの」「情報」が集まる道の駅を復興拠点として整備する
- 商店、金融機関の再開の目途が立たない中、帰村時の村民の日常生活を支えるための施設を整備。また、高齢者等交通弱者のために宅配等を実施する。また、役場や医療機関等と連携し、帰村をサポートする拠点とする
- 産業、特に農業復興のため、食べ物より放射線や風評被害の影響を受けにくい「花」をキーワードにした営農再開を進めるための拠点

<実施内容>

- 【地域福祉】: 帰村時に即応する日常生活必需品確保のための商業施設整備
村民の帰村生活を支援し、高齢者等交通弱者のための宅配サービス、ATM設置による金融サービス等を実施
村内巡回バスによる村内主要施設(役場、医療機関等)、各集落との連携
- 【産業振興】: エリア内施設で先進技術による高価値の花苗を栽培し「までい館」で展示・直売。村民への苗・技術提供による営農再開支援
- 上記に加え、「戻る人」「戻らない人」「村を応援したい人」をつなぐ「ネットワーク型の新しいむらづくり」の拠点として、事業やイベントを企画・実施

※帰村: 原子力発電所事故により村外へ避難している村民が、避難指示解除後に村内に帰還すること。 国は平成29年3月に避難指示解除を目指すとした方針を示している。